

JIS原案等パブリックコメント実施リスト

注記
 1: 意見及び異議受付期間は、令和4年7月1日～令和4年7月30日
 2: 区分aは、JIS規格原案又はTS原案若しくはTR原案の別を記載
 3: 区分bは、制定、改正の別を記載
 4: 対応国際規格は、対応国際規格が判明している場合に記載

No	区分a	区分b	JIS規格番号等	JIS規格原案等の名称	JIS規格原案等の英文名称	JIS規格原案等の適用範囲	規定項目又は改正点	制定・改正に伴う廃止JIS	対応する国際規格番号及び名称	原案作成者
1	JIS	制定		建築物ガラスの曲げ強度試験方法 — 第4部: 溝形ガラス曲げ試験	Glass in building — Determination of the bending strength of glass — Part 4: Testing of channel shaped glass	この規格は、主に建築物に使用するソーダ石灰ガラスの溝形ガラスのプロファイル曲げ強度の試験方法について規定する。	主な規定項目は、次のとおり。 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 記号及び単位 5 装置及び器具 5.1 試験装置 5.2 測定器具 6 供試体 6.1 個数 6.2 寸法 7 試験方法 7.1 供試体の準備 7.2 ローラの中心間距離の測定 7.3 手順 7.4 安全対策 8 算出方法 9 試験報告書		ISO1288-4:2016, Glass in building—Determination of the bending strength of glass—Part 4: Testing of channel shaped glass(MOD)	板硝子協会 一般財団法人日本規格協会
2	JIS	制定		建築物ガラスの曲げ強度試験方法 — 第5部: 小面積同軸リング曲げ試験	Glass in building — Determination of the bending strength of glass — Part 5: Coaxial double ring test on flat specimens with small test surface areas	この規格は、主に建築物に使用されるガラスの曲げ強度である小面積同軸リング曲げ試験方法について規定する。	主な規定項目は、次のとおり。 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 記号及び単位 5 試験の原理 6 装置及び器具 6.1 試験装置 6.2 測定器具 7 供試体 7.1 個数 7.2 形状及び寸法 7.3 供試体の状態及び処理 8 試験方法 8.1 供試体の準備 8.2 手順 8.3 安全対策 9 算出方法 10 試験報告書		ISO1288-5:2016, Glass in building — Determination of the bending strength of glass —Part 5: Coaxial double ring test on flat specimens with small test surface areas(MOD)	板硝子協会 一般財団法人日本規格協会
3	JIS	制定		検定用粒子—多分散球形粒子の特性要件と不確かさの推定	Preparation of particulate reference materials — Polydisperse spherical particles	この規格は、粒子径分布における許容可能な不確かさをもつ球状多分散粒子状標準物質の特性要求事項と、その値付けのための手順について規定する。	主な規定項目は、次のとおり。 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 多分散粒子を調製するための要求事項 4.1 標準物質製造プロジェクトの概要 4.2 多分散粒子用材料の一般特性に関する要求事項 4.3 多分散粒子の粒子径分布 5 多分散粒子の特性評価 5.1 粒子径分布 5.2 アスペクト比 5.3 見かけ粒子密度 5.4 屈折率 6 粒子径測定の不確かさの評価 6.1 試料採取における不確かさ 6.2 その他の不確かさの要因 6.3 粒子径分布の拡張不確かさ		ISO14411-2:2020, Preparation of particulate reference materials — Part 2: Polydisperse spherical particles(IDT)	一般社団法人日本粉体工業技術協会 一般財団法人日本規格協会

JIS原案等パブリックコメント実施リスト

注記

- 1: 意見及び異議受付期間は、令和4年7月1日～令和4年7月30日
- 2: 区分aは、JIS規格原案又はTS原案若しくはTR原案の別を記載
- 3: 区分bは、制定、改正の別を記載
- 4: 対応国際規格は、対応国際規格が判明している場合に記載

No	区分a	区分b	JIS規格番号等	JIS規格原案等の名称	JIS規格原案等の英文名称	JIS規格原案等の適用範囲	規定項目又は改正点	制定・改正に伴う廃止JIS	対応する国際規格番号及び名称	原案作成者
4	JIS	制定		プラスチック非発泡プラスチックの密度の求め方-第1部:水中置換法、液体ピクノメータ法及び浮沈法	Plastics - Methods for determining the density of non-cellular plastics - Part 1: Immersion method, liquid pycnometer method and titration method	この規格は、粉体、フレーク、顆粒及び気泡を含まない射出成形又は押出成形の非発泡プラスチックの密度を求める三つの方法を規定する。	主な規定項目は、次のとおり。 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 状態調節 5 試験方法 5.1 A法 - 水中置換法 5.2 B法 - 液体ピクノメータ法 5.3 C法 - 浮沈法 6 空気の浮力補正 7 試験報告書		ISO 1183-1:2019, Plastics - Methods for determining the density of non-cellular plastics - Part 1: Immersion method, liquid pycnometer method and titration method (IDT)	日本プラスチック工業連盟 一般財団法人日本規格協会
5	JIS	制定		プラスチック非発泡プラスチックの密度の求め方-第2部:密度勾配管法	Plastics - Methods for determining the density of non-cellular plastics - Part 2: Density gradient column method	この規格は、気泡を含まない射出成形若しくは押出成形の非発泡プラスチック又はペレットの密度勾配管法を用いた密度を求める方法を規定する。	主な規定項目は、次のとおり。 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 状態調節 5 試験方法 5.1 装置 5.2 浸せき(漬)液 5.3 試験片 5.4 手順 6 試験報告書		ISO 1183-2:2019, Plastics - Methods for determining the density of non-cellular plastics - Part 2: Density gradient column method (IDT)	日本プラスチック工業連盟 一般財団法人日本規格協会
6	JIS	制定		低圧蓄電システムの評価指標	Criteria for electric energy storage equipment	この規格は、リチウム二次電池又はニッケル水素蓄電池を用いた低圧蓄電システム(以下、蓄電システムという。)の評価指標について規定する。	主な規定項目は、次のとおり。 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 評価指標 5 試験方法 6 算出方法 7 評価指標に関する追加情報			一般社団法人日本電機工業会 一般財団法人日本規格協会
7	JIS	制定		家庭用低圧蓄電システムのラベル	Labelings for electric energy storage equipment	この規格は、主として家庭用に設置する、蓄電池としてリチウム二次電池又はニッケル水素蓄電池を用いた低圧蓄電システム(以下、蓄電システムという。)のラベルについて規定する。	主な規定項目は、次のとおり。 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 記載項目			一般社団法人日本電機工業会 一般財団法人日本規格協会
8	JIS	改正	A9523	吹込み用繊維質断熱材	Loose fill thermal insulation materials	この規格は、主に建築物の小裏屋などに断熱を目的として現場施工する吹込み用繊維質断熱材について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ①用語及び定義に“自己消火性”を追加し、性能において、吹込み用セルローズファイバー断熱材の“防火性”を“燃焼性(自己消火性)”に変更する。 ②①の性能の変更に伴い、附属書Cの試験方法の標題を「防火性試験方法」を「燃焼性試験方法」に変更するとともに、規定内容をJIS A 95211による試験方法に変更する。			一般社団法人日本保温保冷工業協会 一般財団法人日本規格協会
9	JIS	改正	B2355-2	油圧・空気圧用及び一般用途用金属製管継手-Oリングシールによるメートルねじポート及び継手端部-第2部:高圧用(Sシリーズ)継手端部-寸法・設計・試験方法・要求事項	Connections for fluid power and general use-Ports and stud ends with ISO 261 threads and O-ring sealing-Part 2: Heavy-duty (S series) stud ends- Dimensions, design, test methods and requirements	この規格は、メートルねじをもつ高圧用(Sシリーズ)の方向調整形及び固定形の継手端部並びにOリングの寸法、性能及び試験方法について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・試験方法を変更し、JIS B2351-5(油圧・空気圧用及び一般用途用金属製管継手-第5部:油圧用ねじ継手の試験方法)と整合させる。 ・継手端部の寸法を変更する。 ・メートルねじのサイズを追加する。 ・継手端部の図面を変更する。		ISO6149-2:2006, Connections for hydraulic fluid power and general use-Ports and stud ends with ISO 261 metric threads and O-ring sealing-Part 2: Dimensions, design, test methods and requirements for heavy-duty (S series) stud ends(IDT)	一般社団法人日本フルードパワー工業会 一般財団法人日本規格協会
10	JIS	改正	B8665	油圧バルブ取付面及びカートリッジ弁取付穴形状の識別コード	Hydraulic fluid power - Code for identification of valve mounting surfaces and cartridge valve cavities	この規格は、他の国際規格(参考文献を参照)で定める油圧バルブの取付面及びカートリッジ弁の取付穴形状の識別コードについて規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・呼びに、15、16及び17を追加する。 ・「スクリーン式カートリッジ弁」の名称を、用語規格であるJIS B0142に合わせ「ねじ込み式カートリッジ弁」に変更する。 ・使用者の利便性を考慮して、用語及び定義に、JIS B0142(油圧・空気圧システム及び機器-用語)を追加する。		ISO 5783:2019, Hydraulic fluid power - Code for identification of valve mounting surfaces and cartridge valve cavities(MOD)	一般社団法人日本フルードパワー工業会 一般財団法人日本規格協会

JIS原案等パブリックコメント実施リスト

注記
 1: 意見及び異議受付期間は、令和4年7月1日～令和4年7月30日
 2: 区分aは、JIS規格原案又はTS原案若しくはTR原案の別を記載
 3: 区分bは、制定、改正の別を記載
 4: 対応国際規格は、対応国際規格が判明している場合に記載

No	区分a	区分b	JIS規格番号等	JIS規格原案等の名称	JIS規格原案等の英文名称	JIS規格原案等の適用範囲	規定項目又は改正点	制定・改正に伴う廃止JIS	対応する国際規格番号及び名称	原案作成者
11	JIS	改正	C8324	蛍光灯ソケット及びスタータソケット	Lampholders for tubular fluorescent lamps and starterholders	この規格は、蛍光灯ソケット及びスタータソケットに対する技術上及び寸法上の要求事項、並びに安全性及びかん合性(蛍光灯ソケットと蛍光灯ランプとのかん合性及びスタータソケットとスタータとのかん合性)の試験方法について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・ボールプレッシャー試験において、圧痕直径を決定する方法の一つである。押し付けた深さから圧痕直径を算出する方法は、再現性に課題があるため、この算出方法を削除する。 ・導電路を形成しない無機質材料(ガラス、セラミックなど)の端面距離は、関連する空間距離の値より大きくする必要がないことを追加する。 ・参考情報として記載していた内容(表示の耐久性試験で使用する試験溶液、外郭のないソケットの試験条件など)を規定として明確にする。		IEC 60400:2017, Lampholders for tubular fluorescent lamps and starterholders, Amendment 1:2020及びAmendment 2:2022(MOD)	一般社団法人日本照明工業会 一般財団法人日本規格協会
12	JIS	改正	C9300-6	アーク溶接装置—第6部:限定使用率アーク溶接装置	Arc welding equipment—Part 6: Limited duty equipment	この規格は、非専門家が使用するために設計した、アーク溶接及び切断電源(以下、溶接電源という。)、並びに補助装置1)の、安全要求事項、性能要求事項及び電磁両立性(EMC)要求事項について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・温度上昇の測定をピーク温度から温度上昇に変更し、温度センサ、抵抗法における温度上昇値の測定条件を規定する。 ・温度制限装置(通常使用での温度保護)の動作を規定する最高温度限度表に200°C以上の絶縁クラス及びセンサごとの温度上昇限度を追加する。 ・温度保護装置(過負荷状態での温度保護)の動作を規定する最高温度限度表を追加する。 ・箇条10の過負荷試験項目を削除する。 ・制御回路(箇条13)の各項目を削除し、JIS C9300-1の制御回路(箇条12)参照に変更する。 ・電気用品安全法の技術基準で要求する事項との整合を図るため、EMCに関する要求事項を追加する。		IEC 60974-6: 2015 Arc welding equipment—Part 6: Limited duty equipment(MOD)	一般社団法人日本溶接協会 一般財団法人日本規格協会
13	JIS	改正	K0143	表面化学分析—二次イオン質量分析法—シリコン中に均一に添加されたボロンの原子濃度の定量方法	Surface chemical analysis—Secondary-ion mass spectrometry—Determination of boron atomic concentration in silicon using uniformly doped materials	この規格は、ボロンを注入して作製した認証標準物質で校正した均一添加試料を二次標準物質として用いて、単結晶シリコン中のボロンの原子濃度を決定するための二次イオン質量分析法について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 1. 付属書A(シリコンウエハのキャリア密度の決定)で参照していたASTM規格(F1392 水銀プローブを用いた電気容量・電圧測定によるシリコンウエハのキャリア密度の決定に関する標準方法、等)が廃止されたため、代わりにSEMI国際規格(MF1392-0307 水銀プローブを用いた静電容量・電圧測定によるシリコンウエハのキャリア密度の決定法、等)を参照とする。 2. 対応国際規格(ISO14237:2000)の付属書Dで参照しているNIST SRM2137の「深さ方向分布の測定手順」が、ISO17560:2002(シリコン内のボロンの深さ方向分布測定方法)及びISO 18114:2003(イオン注入標準物質を用いた相対感度係数の決定方法)として制定されたことを受けて、ISO14237:2010では、付属書Dを削除してISO17560及びISO18114を引用規格としたため、この規格でも引用して整合させる。		ISO 14237:2010, Surface chemical analysis—Secondary-ion mass spectrometry—Determination of boron atomic concentration in silicon using uniformly doped materials(MOD)	一般社団法人表面化学分析技術国際標準化委員会 一般財団法人日本規格協会
14	JIS	改正	K0164	表面化学分析—二次イオン質量分析法—シリコン内のボロンの深さ方向分布測定方法	Surface chemical analysis—Secondary-ion mass spectrometry—Method for depth profiling of boron in silicon	この規格は、磁気セクター型又は四重極型の二次イオン質量分析法(以下、SIMSという。)を用いたシリコン内のボロンの深さ方向分布測定の方法、及び触針式段差計又は光干渉計を用いた深さ軸校正の方法について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 1. 投影形二次イオン質量分析計を使用する場合における、ボロンイオン強度が高い場合の検出器の飽和を避ける手段として注記に記載している「制限視野絞りを使ってイオン強度を下げるができる。」旨を、本文で規定する。 2. アモルファスシリコン分析時に、SiHクラスターイオンが ²⁹ Siイオン、 ³⁰ Siイオン、及びその分子イオンに干渉するため、 ²⁸ Siイオン又はその分子イオンを参照イオンとして検出する旨の規定(8.4.4)を、注記とする。 3. 深さ方向分布測定中のシリコンイオン強度の変動が許容範囲内であれば一定とみなして、サイクル毎に測定する必要はない旨の規定(8.5.4)を、注記とする。		ISO 17560:2014, Surface chemical analysis—Secondary-ion mass spectrometry—Method for depth profiling of boron in silicon(IDT)	一般社団法人表面化学分析技術国際標準化委員会 一般財団法人日本規格協会
15	JIS	改正	K1902	溶解アセチレン	Dissolved Acetylene C2H2 FW:26.04	この規格は、金属の溶接、切断などに用いる溶解アセチレンについて規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・表示において、安全対策、取扱注意事項等の追加 ・注意事項において、貯蔵や取扱に関する注意事項を追加 ・出荷容器の多孔質物を変更 ・単位をSI単位へ変更 ・関係法令において現行法および機関に変更			一般社団法人日本産業・医療ガス協会 一般財団法人日本規格協会
16	JIS	改正	K6225	加硫ゴム—試料及びテストピースの調製方法—化学試験(通補1)	Rubber, vulcanized—Preparation of samples and test pieces—Chemical tests (Amendment 1)	この規格は、化学試験に用いる加硫ゴムからの試料の調製方法について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・試料の作り方のゴム引き複合材において、ゴムを分離するために用いる溶剤について、現行規格で規定されている塩素系溶剤「ジクロロメタン又は、1, 1, 1-トリクロロエタン」を、「アセトン又は、ETA(エタノールとトルエンとの混合液)」に改める。		ISO 4661-2:2018, Rubber, vulcanized—Preparation of samples and test pieces—Part 2: Chemical tests(MOD)	一般社団法人日本ゴム工業会 一般財団法人日本規格協会

JIS原案等パブリックコメント実施リスト

注記

- 1: 意見及び異議受付期間は、令和4年7月1日～令和4年7月30日
- 2: 区分aは、JIS規格原案又はTS原案若しくはTR原案の別を記載
- 3: 区分bは、制定、改正の別を記載
- 4: 対応国際規格は、対応国際規格が判明している場合に記載

No	区分a	区分b	JIS規格番号等	JIS規格原案等の名称	JIS規格原案等の英文名称	JIS規格原案等の適用範囲	規定項目又は改正点	制定・改正に伴う廃止JIS	対応する国際規格番号及び名称	原案作成者
17	JIS	改正	K6228	ゴム－灰分の定量	Rubber－ Determination of ash	この規格は、JIS K 6397に規定するM、O、R及びU族に属する、原料ゴム、未加硫ゴム及び加硫ゴムの灰分の定量に用いる2種類の灰化方法、燃焼法（燃焼-A法、燃焼-B法、燃焼-C法）及び熱重量測定法（TGA-A法、TGA-B法）について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・測定方法について、国際規格との整合を図るため、より安全かつ迅速で簡便な方法としてパーナーを使用せず加熱炉のみで行う方法及び熱分析装置を用いる方法を追加する。		ISO 247-1:2018, Rubber－ Determination of ash－Part 1: Combustion method ISO 247-2:2018, Rubber－ Determination of ash－Part 2: Thermogravimetric analysis(MOD)	一般社団法人日本ゴム工業会 一般財団法人日本規格協会
18	JIS	改正	K6253-3	加硫ゴム及び熱可塑性ゴム－硬さの求め方－第3部：デュロメータ硬さ	Rubber, vulcanized or thermoplastic－ Determination of hardness－Part 3: Durometer method	この規格は、加硫ゴム及び熱可塑性ゴムのデュロメータ硬さの求め方について規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・スタンドにおいて 精度の規定を追加する。 ・試験片の状態調節において、試験片の状態調節時間を変更する。 ・測定点数において、“5点”から“5点又は3点”に変更する。 ・校正において、摩擦についての注記を追加する。 ・硬さ確認用ゴム試験片による試験機の確認の方法において、硬さ確認用ゴム試験片を“6種類”から“3種類”に変更する。		ISO 48-4:2018, Rubber, vulcanized or thermoplastic－ Determination of hardness－ Part 4: Indentation hardness by durometer method (Shore hardness)(MOD)	一般社団法人日本ゴム工業会 一般財団法人日本規格協会
19	JIS	改正	K7241	発泡プラスチック－小火炎による小試験片の水平燃焼特性の求め方	Cellular plastics－ Determination of horizontal burning characteristics of small specimens subjected to a small flame	この規格は、JIS K 7222の規定によって測定した密度が250 kg/m ³ 未満の発泡プラスチックの小試験片を着火源にさらしたときの、相対的な水平燃焼特性を比較するための小形の試験室内試験方法を規定する。	主な改正点は、次のとおり。 ・試験装置の試験片を支える金網寸法及び形状において、試験片の燃焼を妨げないために、金網の端部を上へ折り曲げて試験片に当てることを改める。 ・試験手順の試験片の置き方において、試験片と着火炎の位置関係を明確にするため、図2を改める。 ・計算において、燃焼速度の計算方法とその表示方法を明確にする。		ISO 9772:2020, Cellular plastics－ Determination of horizontal burning characteristics of small specimens subject to a small flame(IDT)	日本プラスチック工業連盟 一般財団法人日本規格協会